

[概要]

高齢化率が高く、地理的条件から生活に制約が多いと思われる中山間地域で、高齢者がなお住み続けを希望する理由は何なのか。先行研究は、その理由として大きく(1)場所への愛着、(2)イエ意識、の2つの要因のいずれかに焦点を当ててその理由を説明してきた。しかし、この2つの要因が二律背反的であるかどうかの検証は不足している。そこで本研究は、中山間地域である石川県宝達志水町所司原を事例とし、場所への愛着とイエ意識の両方の要因から構成されるものとして、高齢者の住み続けを読み解くことを試みた。Rowles(1980)の内側性の概念を援用し、地域への愛着を分析したところ、高齢者には場所愛を基底にもつ所司原に住み続けたいという積極的な思いがあることが示された。一方、先行研究で「家を守らなければならない」義務的な思いと位置づけられてきたイエ意識についても、対象地の高齢者にとってはその地域に住むことを受け入れた結果、場所への愛着形成に寄与するものと認識されていた。以上のことから、愛着とイエ意識の関係は、その地域で過ごした時間の長さや地域内で蓄積してきた経験によって変容を遂げるものと考えられる。

キーワード：中山間地域 高齢者 愛着 イエ意識 住み続け